

病院長就任挨拶

「琉球大学医学部附属病院長へ就任して」

琉球大学大学院医学研究科胸部心臓血管外科学講座 教授 國 吉 幸 男



同窓会会員の皆様、この憂鬱な梅雨の時期をいかがお過ごしでしょうか。しかし、沖縄らしい夏もすぐそこですよ。

さて、縁あって本年1月1日付けで医学部附属病院長に就任して半年近くが過ぎようとしています。様々な課題があり、執行部とともに難局を乗り切るべく努力している最中です。時代の変化に柔軟に対応できる組織づくりが肝要ですが、大学改革との名の下に2004年に国立大学法人化が行われました。大学の自治を緩和するのに引き替え、運営交付金を減じると言うのが趣旨です。大学の生き残りをかけて多くの関係者が奮闘していますが、医学部附属病院については、更に「健全なる経営」が問われています。従来は、1) 教育、2) 研究、3) 診療の3本柱が行われていれば、経営については問題視されませんでした。法人化後は4) 健全なる病院経営の下での新しい発展・展開を実行する、ことを要求されています。大学附属病院の売りは、高度な先端医療を行い地域住民の福祉に貢献することでありました。しかし、このような高度医療は利益率が低いのが常套です。従来は護送船団方式により、その損益を国がカバーしましたが、現在はそれが直ちに病院の負債となります。この様な附属病院の状態は、利益が出なければ次世代に向けての新たな投資、展開が出来ないことを意味し、各附属病院の発展に大きな足かせとなり、将来に向けて大きな禍根を残すこととなります。したがって、4) の病院経営が優先されがちです。しかしながら、大学の最も重要な使命は人材育成であると確信し、また多くの国民の希望でもあります。琉球大学医学部は沖縄県における唯

一の医師医育機関であり、地域が必要としている医療人の育成や、将来にわたり医学研究分野で活躍する医学研究者を育成するのが医学部の使命であると考えています。ある人の言葉に、「小人は金をつくり、中人は仕事をつくり、大人は人をつくる」とあります。将来を見据えた、将来の医療を担える人材を多く作ることが、将来の地域医療ひいて日本の医療を安泰なものとすることができると確信しています。

第一期生の卒業以来30年近くが経過し、沖縄県医師数における琉球大学医学部卒業生の占める割合は既に50%を越え、そしてその各医療機関での役割も重要な地位を占めるようになってきています。さらに今年は琉球大学医学部卒業生の母校での教授も誕生しています。かかる状況下で、この大きく発展した琉球大学医学部医学科同窓会の果たす役割も社会の注目を集めてきていると感じています。同窓会誕生時の黎明期・揺籃期に多くの関係者から頂いたご支援を返すべく医療人材育成に関連した事業構想を行うなど、新たな進化を遂げて頂きたいと希望いたします。